

令和8年第2回定例会

行政報告

(公表用)

令和8年6月2日

印西市長 藤代 健吾

～目次～

1. はじめに.....	1
(1) 野崎副市長の育休について.....	1
(2) 令和7年国勢調査結果の速報値について.....	2
(3) 第2次基本計画について.....	2
(4) 教育ビジョンについて.....	2
2. 安全・安心・健康福祉.....	3
(1) 春の全国交通安全運動出動式.....	3
(2) 日本医科大学創立150周年記念式典.....	3
(3) NECグリーンロケッツ東葛.....	4
(4) 北総ライノス.....	4
3. 子育て・教育・文化.....	5
(1) 千葉県印旛児童相談所の開所.....	5
(2) 送迎保育ステーション 千葉ニュータウン中央駅圏に4月1日オープン！.....	5
(3) 印西市市制施行30周年記念お祝い給食.....	5
(4) 平和事業（広島への中学生派遣）.....	6
4. 産業・交流.....	6
(1) 印西市市制施行30周年記念「第5回印西まちなか音楽祭」.....	6
(2) 印西市プレミアム付きデジタル商品券の販売、物価高騰対策高齢者ギフト券の配付.....	7
(4) 空・水・空（そら・みず・くう）芸術祭.....	7
(5) 龍の奇跡 ～Legend of INZAI～.....	8
(6) 小林牧場桜まつり.....	8
(7) 国際交流エコ・スローマラソン印西2026.....	9
5. まちづくり・生活環境.....	9
(1) 地区計画の変更.....	9
(2) （仮称）印西クリーンセンター次期中間処理施設.....	10
6. 住民自治・協働・行財政.....	10
(1) 職員人事 ～市役所の取り組み～.....	10
7. 各種行事の出席状況.....	11
8. 提案する議案・報告.....	11

1. はじめに

前定例会の行政報告以降の、各種取り組みに関連した事項を中心に、主な事項をご報告します。

現在、台風第6号が接近しており、明日の日中から昼にかけて関東地方への接近が見込まれています。

これに伴い、本市におきましては、特別避難所の開設に向けて準備を進めているところでございます。

議会開催中でございますが、状況によっては議会運営も含め、議員の皆様にご協力をお願いする場面が生じることもございます。

市民の安全確保を最優先に、万全の対応を図ってまいりますので、何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。

(1) 野崎副市長の育休について

野崎副市長が第1子誕生に伴い、5月22日から育休を取得しています。

期間は6月18日までの28日間を予定しています。

印西市では、職員のワーク・ライフ・バランスの充実に向けて、育児や介護と仕事の両立を支える職場環境づくりに取り組んでおり、特別職が率先して育休を取得することで、「男性の育児参加は当たり前」という風土を市役所全体に、さらに広げていきたいと考えています。

また、野崎副市長の育休期間中には、本定例会を含め議会が開催されているところであり、今回の対応につきましてご理解を賜りました議員の皆様に、改めて心より感謝申し上げます。

昨今、行政のトップが育休や産休を取得することに対して、否定的なご意見があることも伺います。

しかし、もし首長をはじめとする政治家が、「子を産み、育てるとい生活ができない職業」になってしまったら、担い手は限られてしまいます。

政治家という職業が当たり前を選択肢として考えられる社会を目指し、私自身も努力していきたいと思えます。

野崎副市長の育休期間中も、私および染谷副市長のもと、組織一丸となって行政運営に万全を期してまいりますので、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

(2) 令和7年国勢調査結果の速報値について

令和7年国勢調査結果の速報値が発表されました。

令和2年の前回調査から、印西市の人口は7,791人増加の110,400人、増加率は7.59%となり、全国では10番目、千葉県内では、流山市に続く2番目となっております。

近年は、子育て世帯を中心とした人口流入が続いており、また今後は、成田空港の機能強化による定住人口の増加も見込まれます。

人口増は税収増などのメリットをもたらしますが、何より、まちの活気が生まれます。その活気を一過性のものとせず、第2次基本計画で示した経営ビジョン、『「緑・育・職・住」近接の、未来都市。』の実現に向け、新たなまちの魅力を創出してまいります。

(3) 第2次基本計画について

令和8年度からの本市の最も重要な計画である「印西市第2次基本計画」を策定しました。

本計画では、本市が近い将来に人口減少の局面を迎える状況を踏まえ、経営的な視点に基づく戦略的な行政運営を進めていくことを目的に、新たに経営戦略を盛り込んでいます。本戦略では、『「緑育職住」近接の、未来都市。』という新たな経営ビジョンを定め、都市経営と行政経営の両輪を軸に、それぞれ8つの基本目標を掲げ、効果的な施策を展開することで、市民のウェルビーイングやまちの価値の向上を目指します。

(4) 教育ビジョンについて

今後の教育の方向性を示す指針として、令和7年度から総合教育会議で議論を重ね、このたび「印西市教育ビジョン」を策定いたしました。

子どもたちは地域の宝であり未来を担う大切な存在です。子どもたち一人ひとりの学びが、こどものウェルビーイングを高め、学校や地域全体へと広がる好循環を生み出すことを目指し、3つのプロジェクトを柱に、10の施策を推進してまいります。

2. 安全・安心・健康福祉

(1) 春の全国交通安全運動出動式

4月5日、市民一人ひとりが交通ルールを遵守し、正しい交通マナーを実践し、交通事故の防止を図ることを目的に春の全国交通安全運動出動式が開催されました。

4月1日に施行された道路交通法の一部改正により、自転車にも「交通反則通告制度（青切符）」が適用され、自転車の交通違反も反則金の対象となることから、市のホームページや広報紙への掲載や街頭及び駅頭での啓発活動を実施しました。また、例年4・5月に小・中学校で実施している交通安全教室において、自転車の交通ルールを周知しました。

市内の自転車走行環境は、ニュータウン地区と在来地区で状況が異なります。ニュータウン地区では、歩道走行する自転車が多く、歩行者にとっての危険が生じます。一方で、在来地区では歩道、路肩などが狭く、自転車が車道を走行する際の危険性が高い状況です。

この様な本市の状況を踏まえ、歩行者・自転車・自動車など道路利用者の誰もが安全に通行できるよう、引き続き、交通ルールの周知徹底に努めてまいります。

(2) 日本医科大学創立150周年記念式典

4月25日、パレスホテル東京において開催された、「日本医科大学創立150周年記念式典」に招待され出席しました。

小池都知事をはじめ多数の来賓ご臨席のもと盛大に記念式典が行われ、大学創立150年という長い歴史により培われた日本医科大学の功績に大変感銘を受けました。

日本医科大学が掲げる「済生救民（病める人を救い、庶民を救済する）」との理念には強く共感しているところです。

本市には千葉北総病院と看護専門学校が立地しており、千葉北総病院は広域な救命救急や災害時の基幹拠点として位置付けられております。

千葉北総病院が地域に果たす役割の大きさを再認識し、今後も連携して地域医療体制の充実を図ってまいります。

その一方で、千葉北総病院は開院から30年が経過しており、施設の老朽化も進んでいるほか、病院の周辺には日本医科大学が所有する広大な未利用地が存在していることから、5月11日に、東京都文京区の日本医科大学本部を訪問し

た際、理事長に直接お会いして、150周年のお祝いを伝えるとともに、今後の未利用地活用など、印旛日本医大駅圏のまちづくりについて意見を交わしました。

(3) NECグリーンロケッツ東葛

2月22日、NECグリーンロケッツ東葛との連携事業「印西市ホストタウンデー」が開催されました。

当日は、市民へのラグビー観戦機会の提供をはじめ、地域交流やスポーツ振興に資する取り組みが実施され、多くの来場者で賑わいました。

なお、同チームはジャパンラグビーリーグワン・ディビジョン2において4位の成績を収めており、今年7月にはJR東日本への譲渡が予定されていますが、今後におきましても、ラグビーを通じた地域活性化の推進および市民のスポーツ参加機会の充実に向け連携を図ってまいります。

(4) 北総ライノス

3月30日、3×3プロバスケットボールチーム「北総ライノス」を運営する株式会社 `backseat` と、地域振興および地域貢献に関する連携協定を締結しました。

本協定は、バスケットボールを通じたスポーツ振興、健康増進、地域活性化およびシティプロモーションの推進を図ることを目的とするものです。

同チームは、全国大会での優勝や、4月18日に渋谷で開催された国際大会への出場実績を有しているほか、市内においてバスケットボール教室やキャリア教育セミナーなどにも取り組んでいます。

なお、8月16日には、松山下公園総合体育館において、北総ライノスが出場する、3×3プロバスケットボール大会をはじめ、ミニバスケットボール大会、キッチンカーの出店、ステージイベントなどを内容とするスポーツイベントの開催を予定しております。

今後も、3×3バスケットボール大会の誘致や体験会の開催など、スポーツを核とした地域の一体感の醸成と市の魅力発信をより一層推進していきます。

3. 子育て・教育・文化

(1) 千葉県印旛児童相談所の開所

4月20日、印西市内に千葉県印旛児童相談所が開所しました。

同相談所は、印西市をはじめ成田市や佐倉市など9市町を管轄し、面接室の拡充や一時保護中の子どもが生活する居室の個室化など、支援環境の充実が図られており、地域の児童福祉を支える新たな拠点として、こどもと家庭への支援の充実が期待されます。

市としても、同相談所を始めとする関係機関と連携し、必要な支援ができるよう取り組んでまいります。

(2) 送迎保育ステーション 千葉ニュータウン中央駅圏に4月1日オープン！

4月1日、送迎保育ステーション「KIDS MOBILITY STATION」が開所し、午前7時からの開所式に、関係者の皆様と出席いたしました。

開所に先立ちましては、3月27日に内覧会も開催させていただき、市議会議員の皆さまにもご参加いただきました。現在、27名の園児に利用いただいております。利用されている保護者の皆様からは、負担軽減になっている、大変助かっている、との声もいただいております。本議会に補正予算案も上程させていただいておりますが、今後は、令和9年4月1日の印西牧の原駅圏での開設に向けて、準備を進めてまいりたいと考えております。

(3) 印西市市制施行30周年記念お祝い給食

4月23日、滝野小学校で「印西市市制施行30周年記念お祝い給食会」を開催し、6年生の皆さんとお祝い給食を味わいました。

市内の農家の方が丹精込めて育てた野菜や果物を味わうことは、食の安全・安心を実感するだけでなく、地域の魅力を身近に感じるきっかけにもなります。

地産地消・食育の取り組みを通して、こどもたちが「地元の食材を知り、味わい、誇りに思う」機会づくりになりました。

また、市内では若手農家の活躍が広がり、新規就農も増えるなど地域農業に前向きな動きが見られます。市はこうした地域の力を生かしながら地産地消をさらに推進するため、学校給食での地元食材の活用拡大に取り組んでいます。

生産者や関係機関と連携し、給食で継続的に使用できる食材の確保や提供体制の整備等を進めることで、子どもたちが新鮮で安全・安心な地元の味を日常的に触れられる環境づくりにつなげてまいります。

(4) 平和事業（広島への中学生派遣）

本年8月、印西市では初めての試みとなる広島市への中学生平和学習派遣事業を予定しております。

参加者の募集状況でございますが、4月から募集をしたところ、定員18名に対し22名の応募がございました。提出されたPR動画により選考を行い、18名の派遣生徒を決定したところです。

本事業の充実に向けた検討の一環としまして、5月12日に、被爆地への中学生派遣を平成17年度から取り組んでいる我孫子市を訪問し、星野市長や事業担当課から取り組み内容について意見を伺いました。長年のご経験から、参加生徒の選考においては「本人の意欲」を重視すること、また派遣後に学校等で報告活動を行うことが教育効果を高め、学びを学校や地域へ波及させる上で重要であるとの知見を得たところでございます。

また、先日出席いたしました遺族会の総会におきましては、会長から、戦後81年を迎え会員の減少が課題となっているとお話を伺い、改めて、平和の尊さを次世代に伝えていくことの重要性を強く認識したところでございます。

今後は、7月の事前説明会をはじめ必要な準備を着実に進め、広島市での学びがより一層実りあるものとなるよう取り組んでまいります。また、併せまして、得られた学びを学校や地域へ広げ、平和の尊さを次世代へ継承する取り組みをしっかりと進めてまいります。

4. 産業・交流

(1) 印西市市制施行30周年記念「第5回印西まちなか音楽祭」

5月10日、第5回印西まちなか音楽祭が印西牧の原駅周辺の12ステージで開催しました。

当日は、106組666人の出演者による演奏に延べ約32,000人の方々にお越しいただきました。出演者数及び来場者数は、初回開催時の約2倍以上となり、まちの新しい文化として根付いたと感じております。

開催にあたり実行委員の皆様をはじめ、様々な企業や印旛明誠高校、さらにはボランティアスタッフ、サポーターなど、多くの方々にご協力をいただきました。

今年は市制施行30周年の記念回として、オープニングセレモニーでは、印西市出身の音楽家の皆さんに演奏いただきました。

次の30年に向けて、まちなか音楽祭を皆様とともに育んでまいります。

(2) 印西市プレミアム付きデジタル商品券の販売、物価高騰対策高齢者ギフト券の配付

食料品等の物価高騰に対する支援と地域経済の活性化を目的として、市内加盟店で利用できるプレミアム付デジタル商品券を市民の皆さまに販売しています。二次販売において、一部システムトラブルがございましたが、5月31日現在で、約97%の販売を終了しております。

また、食料品等の物価高騰に伴う高齢者の生活費の負担軽減のため、65歳以上の高齢者に5千円分のギフト券を、3月中旬から順次配布いたしました。

デジタルでの利用に不安のある高齢者の方々にも配慮し、紙の商品券を配布するなど、利用しやすい形での支援に努めたところでございます。

対象の方のうち、約99%以上の方への配布が完了しており、ご不在等で受取が完了していない方には、市から再度通知をする予定となっております。

対象の方からは、「食料品が高騰している中で、生活費の足しになった」「迅速に配付いただきありがたい」等の感謝の声をいただいている一方で、「近くの店舗では使用できない」「使用できる店舗が少ない」などのお声もいただいております。こうした皆さまからいただいたご意見は、今後の事業に生かしてまいります。

今後も、高齢者の皆さまが安心して生活できるよう、寄り添った支援を進めてまいります。

(4) 空・水・空（そら・みず・くう）芸術祭

3月29日、師戸の印旛沼公園では、師戸囃子保存会の皆さんをはじめとした音楽と地元の方々の出店により、花見の会が盛大に行われました。

印旛沼公園周辺は、来年、空・水・空（そら・みず・くう）芸術祭の開催を予定している地域であり、4月24日には、芸術祭のロゴデザインが発表されました。ロゴデザインは名称である空・水・空（そら・みず・くう）の関係を簡潔に表し、背景は空と水を、中央の円は深層心理を映す鏡のような存在であると同時に、人と人とがアートを通じて出会い、つながっていく場の象徴としています。

また、5月14日には総合ディレクターの北川フラム氏による勉強会が行わ

れ、実行委員会職員やオブザーバー企業等が芸術祭の意義や先進事例等を学びました。

本市においては、印旛沼周辺の地域特性を生かし、人と文化の交流を通じた新たな価値創造の場の形成が期待されております。

こうした取組を通じて、地域課題の解決やにぎわいの場の創出に向けて引き続き努力してまいります。

(5) 龍の奇跡 ～Legend of INZAI～

新酒「龍の奇跡～Legend of INZAI～」が完成されたことに伴い、4月7日に印西市商工会の方々が表敬訪問で来庁されました。

本市では過去にも、印西市商工会の企画により、地元産の酒米を活用した日本酒が平成20年10月に本格的に販売された経緯があります。

このたび、印西市商工会により、印西市の活性化を目的として、令和6年度から地元産の酒米を用いた「日本酒プロジェクト」を新たにスタートし、令和8年度に「龍の奇跡～Legend of INZAI～」として復活・完成に至りました。

この日本酒は、本埜小学校の児童が田植えや稲刈りに参加して育てたお米を原料として造られています。私も5月11日の田植え体験に参加させていただきましたが、米作りから酒造り、販売に至るまで関わってくださった皆さまに、改めて感謝申し上げます。

なお、酒米づくりにお貸しいただいた本埜小学校裏の谷津の田は、長らく耕作放棄地となっていました。地域の方々が田んぼとして復活していただき、こどもたちのためにご協力いただいたことに感謝申し上げます。

(6) 小林牧場桜まつり

3月28、29日の両日、小林牧場を会場に桜まつりが行われ、市内の団体のみなさんにも多数ご出店いただき、県外からも多数の来場者をお迎えしました。

小林牧場については、機能の移転が予定されています。桜まつりの他にも古くからキャンプ場として親しまれるなど、地域に根差してきた牧場の歴史を活かし、まちの未来を創っていく拠点として整備されるよう関係機関とも連携・議論してまいります。

(7) 国際交流エコ・スローマラソン印西2026

4月5日に開催された「国際交流エコ・スローマラソン印西2026」に、スターター並びに一部ランナーとして参加しました。

印西市が世界の玄関口となり、多様な人々とともに、「環境」・「健康」・「交流」を同時に推進する大変意義のあるイベントです。

当日は、外国人ランナー27名をゲストとしてお迎えし、ゴミを拾いながらジョギングやウォーキングを楽しみ、相互交流を深めました。併せて、吉高の大桜や印旛沼のほitoriなど、印西市の豊かな自然と日常の風景に触れていただきました。

私たちにとっては当たり前の田園風景や沼のほitoriが、海外の方々には「ぜひ訪れて走りたい」と思わせる高い価値があり、そうした魅力の中に、地域の可能性を感じています。このかけがえのない地域の価値を次世代へ引き継ぐため、今後も、このようなイベントを通じて、市の魅力ある地域資源を磨き上げ、持続可能なまちづくりにつなげてまいります。

5. まちづくり・生活環境

(1) 地区計画の変更

現在取り組んでいる「市独自の新たなルールづくり」については、複数の選択肢がある中で、その効果と実現性等を踏まえ、地区計画の変更を選択し、作業を進めているところです。変更の主な内容としましては、駅周辺でのデータセンターの建築について一律用途の制限を行うものでございます。

変更の対象区域のうち、印西牧の原東地区地区計画においては、現在順調に手続きを進めているところであり、この後、市の都市計画審議会の審議等を経たのち、8月上旬頃の都市計画決定を目指し進めています。

また、印旛日本医大駅前周辺地区地区計画について、去る5月25日に印旛中学校体育館において、地権者住民向けの説明会を開催し、この後も、必要手続きを進め早期の都市計画決定を目指してまいります。

千葉ニュータウン中央駅圏のタウンセンター地区地区計画及び印西牧の原駅前センター地区地区計画についても、地権者等関係者の皆さまにご理解を得ながら地区内の合意形成を図り、状況が整い次第、早期の変更手続きを進めていきたいと考えております。

(2) (仮称) 印西クリーンセンター次期中間処理施設

現在、印西地区環境整備事業組合において、吉田地区で整備を進めております新清掃工場となる次期中間処理施設の建設工事につきましては、令和10年4月の稼働に向け、工事が進められています。

また、関連事業として整備する地域振興施設につきましては、地元吉田区の皆様のご意見を伺いながら整備内容を検討し、令和7年度に「入浴機能を中心とした滞在型の多機能な複合余暇施設」を整備することで決定いたしました。

主な機能といたしましては、内風呂やサウナ、自然景観を生かした露天風呂などの入浴施設、飲食店や農産物の直売施設、バーベキュー広場、南国フルーツ農園、様々なイベントが開催できる広場などでございます。

今後は、デザインビルド方式により、設計・施工建設業者を選定し、多彩なニーズを踏まえ、広く地域の皆様にご利用いただける、魅力ある施設となるよう整備を進めてまいります。

市としても、引き続き、組合と連携を図り、新清掃工場や地域振興施設の整備促進に努めてまいります。

6. 住民自治・協働・行財政

(1) 職員人事 ～市役所の取り組み～

多様化する市民ニーズや新たな行政課題に的確かつ迅速に対応するため、4月1日より組織の一部を見直した新体制のもとで市政運営をスタートいたしました。

人材確保の面においても、大きな改革を行い、令和8年度の採用試験から、筆記試験による合否判定を撤廃した社会人経験者枠を新設いたしました。民間企業等で培った専門スキルや実務経験を、即戦力として活かしていただきたいと考えております。現在、多くの社会人の方々からエントリーをいただき、大変心強く感じているところです。

また、組織を内側から活性化させる取り組みとして、「行政改革実行戦略・抜本的な業務改革」の一環として、職員の相互称賛の文化を醸成し、職員エンゲージメントの向上を図ることを目的とした『みんなの「いいね」』を令和7年度から開始し、去る3月24日に職員同士の投票により選出された上位者を表彰し

ました。この取り組みは、職員が日頃の素晴らしい行動や職務姿勢に対して感謝と称賛を共有し合うことで、活気ある職場風土を実現するものであり、引き続き継続させてまいりたいと考えています。

7. 各種行事の出席状況

以上が主な取り組みに関連する事項となります。

前回の行政報告以降の各種行事等の出席状況としましては、市主催会議・行事 27件、表敬訪問・市内イベント 74件、対話会 2件、市外での要望・会議出席・視察 23件でございます。

8. 提案する議案・報告

今議会に、ご提案いたします議案でございますが、

承認	3件
条例	7件
予算	3件
契約の変更	1件
財産の取得	1件
その他	1件
計	16件でございます。

なお、議案のほかに、2件の報告がございます。

報告第1号につきましては、令和7年度印西市一般会計 継続費 繰越計算書を調製いたしましたので、地方自治法施行令第145条第1項の規定により、報告するものでございます。

報告第2号につきましては、令和7年度印西市一般会計 繰越明許費 繰越計算書を調製いたしましたので、地方自治法施行令第146条第2項の規定により、報告するものでございます。

以上でございます。